

令和6年度 多摩市立南鶴牧小学校 学校評価書

学校教育目標	
かしこく なかよく たくましく	
目指す学校像（学校経営ビジョン）	
(1) 子供の側に立った教育活動を推進し、生きる基盤となる「知」「徳」「体」を育む。 (2) 社会や自分自身の幸福のために尽くしていける、基礎を構築する。 (3) 諸施設、人材といった地域資源・環境資源や家庭と連携・協力し、教育力の相乗効果を生む。	
目指す子供像	目指す教師像
(1) 学んだ知識を知恵に高め実践する児童 (2) 思いやりの気持ちと社会性をもち実践する児童 (3) 健康な心と体を持ち、頑張り、やり遂げる児童 (4) さまざまな関わりを大切にし、関わりをよりよい生活に生かす児童	(1) SDGs 達成に向けて児童の人材育成を図る教師 (2) 児童理解を基本に、誰もが生き生きと生活する社会を実現する教師 (3) 困難に立ち向かい、克服していく教師 (4) 家庭や地域と連携して教育活動を進める教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	①「学習規律の確立」②「基礎学力の習得」 ③「学びの質を高める」(含ESD)			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
誰もが考えをもち、伝え合えることのできる学習の構築(UD 含む)。評価90%	3	三者ともに高評価だったが、授業のねらいを達成するための手立て構築に課題が残った。	A	・読書活動は充実している。 ・考えの伝達が苦手な児童にも個別に対応している。
万学の基礎としての読書活動の充実。評価90%	3	児童の評価が減少している。活動に重きを置きすぎる傾向がある。	A	・外部人材活用は保護者も88%の評価なので、標語「3」でもよいのでは。60回以上の人材活用は評価できる。
外部人材の活用で、意欲の向上を図る。評価90%	2	目標をやや下回ったが、約60回の外部講師授業を行った。	B	
評価のまとめ	読書活動は充実している旨の評価を各方面からいただいたが、同じ取組が数年続くと形骸化してくることも明らかになった。新しい取組が必要である。誰もが考えをもてる授業の構築は令和7年度も継続していく。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	①「道徳教育の充実」②「生活指導の充実と徹底」 ③「人や社会との関わりを重視した教育活動の実践」			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評価	現状の分析と改善策	評価	学校運営協議会委員 の意見
他者や社会との関わりを重点とした道徳科授業の充実と積極的な授業公開。評価 90%	3	道徳授業地区公開講座等で、本校の道徳教育について発信。保護者地域からも高評価。	B	・いじめ対応等から、児童の心の安心が保たれている。 ・重大事態0からは、教員相互のコミュニケーションのおかげ。 ・支援学級と通常の学級の交流が、児童・教師ともに行なっているのがよい。
校内、学校運営連絡協議会、地域とのいじめ情報共有・防止と児童の安心・安全の確保 重大事態の発生「0」	4	いじめの重大事態の発生は無し。今後も継続していくことが課題。	A	
異学年・地域・支援級との交流活動と成果。評価 85%以上	4	児童相互だけではなく、教員も支援学級で授業を行った。今後も継続していく。	A	
評価のまとめ	多様性の時代において、児童だけではなく、教員相互のコミュニケーションや交流も推進した。心の在り方は、数値や客観的な標語では測りにくい、その試みがマイナスになっていないとの自負がある。今後も人や物との関りを推進していく。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	①運動に親しむ資質・能力の育成 ②心のたくましさの育成 ③ボランティア・マインドの育成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評価	現状の分析と改善策	評価	学校運営協議会委員 の意見
体育授業等の充実による運動 する楽しさの実感。評価85%	3	学年が上がるたびに評価の数値 が減少している。特に6年生につ いては詳細な考察が必要。	B	・芝生維持は他者を思いや る心を育てる、保護者の意 識向上も願っている。 ・結果よりも意識の醸成が 小学校では大切。 ・体育も算数のように少人 数化ができれば。
行事に取組む意識向上と心の 育成。児童評価 90%	4	今年度は行事の成功が目的では なく、育てたい力を明確にした。	A	
ボランティア・マインドを育む奉 仕活動、芝生維持活動の実施。 教員・児童評価 85%	2	児童の評価が目標値を下回っ た。昨年度比―8ポイント。しっか りと考察したい。	B	
評価のまとめ	ボランティアマインドの昨年度比―8ポイントを真摯に受け止めたい。児童の奉仕 的な活動は十分に計画されているが、自己評価をしたり、更に自分の発想で学校 や地域を良くしていける、との活動が十分でなかったと感じる。校内で、その意識に 気付く教員も出てきているので、さらに広げていきたい。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	① 教育活動の情報発信の徹底 ② コミュニティ・スクールを見通した、地域学校協働本部の活動推進 ③ 合唱団の活動を通した家庭・地域連携と貢献			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
学校便り、HP、配信メールを通した徹底した情報共有と教育活動への協調・協働。 地域・保護者評価 95%以上	4	学校の教育活動を広く知ってもらうため、HPを最大限に活用した。地域外からの閲覧も多く、850万閲覧を超えた。	A	・学校HPの更新が頻繁にされていて、保護者ではない地域住民も学校を身近に感じた。 ・手紙の電子配信は、いろいろな意見があると思うが、時代に合っている。 ・地域の催しを増やすことも考えたい。
学校運営連絡協議会、地域学校協働本部、放課後こども教室、地域未来塾を統括する組織の運営	4	放課後子ども教室や地域の行事へ参加する児童が確実に増えている。保護者からは高評価。	A	
合唱団の公演活動による地域貢献活動を保護者との協働により実施。保護者評価 90%以上	4	合唱団の活動には、どの家庭からも理解を得ている。今年度も地域の自治会主催をはじめ、多くのイベントに出演した。	A	
評価のまとめ	学校HPを中心とした情報発信は本校の強みであると自覚している。児童の日頃の学習の様子は当然として、コミュニティスクールとして多くの方々が教育活動に参画してくださっている様子を今後もPRしていきたい。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

【学校運営全体】 ・若手教員の育成を図り、全教職員が育成の主体者という自覚のもとで行ない、保護者・地域から信頼される学校を目指す。 ・誰が担当しても一貫性のある教育活動を行い、児童や保護者の安心や信頼を勝ち取っていく。 【確かな学力の育成】【豊かな心の育成】【健やかな体の育成】【家庭や地域との連携】 ・高学年教科担任制の実施と効果測定を確実にこなっていく。 ・全児童が、主他者になり得る授業モデルを構築する。 ・支援学級と通常の学級の教員が授業実践を含めた交流を進める。 ・児童自身が、地域や学校をより良くしていくために何ができるのか、と考えていく学習を進める。芝生維持活動も促進する。 ・コミュニティ・スクールとして、児童が学校運営協議会へ参加するなど、地域の協力を得ながら児童の参画意識を高める。 ・合唱団の活動を、地域学校協働本部とも連携しながら、推進していく。その活動の中で、児童が得られた達成感を、より広く全校児童に伝播させていく
--

以上のとおり報告いたします。

令和7年3月28日

多摩市立南鶴牧小学校 校長 森 信行

公印

令和6年度 学校評価書



多摩市立南鶴牧小学校